「三ツ井戸」

所沢は、井戸を深くまでほらないと、水が出ないため、昭和 12 年に水道がひかれるまでは、たいへん水についてふべんな所でした。「所沢の火事は土で消す」という言葉もあったそうです。そんな水に苦ろうした所沢にあって、次のような伝せつがのこされています。

　夏のある日、1 人のおぼうさんが 1 ぱいの水をもらうために民家に立ちよりました。そこの家のむすめさんは、水をくみに行きましたが、なかなかもどってきません。ふしぎに思ったおぼうさんは、帰ってきたむすめさんにそのわけをたずねました。するとむすめさんは、このあたりが昔から水にふべんなこと、井戸まで遠くて苦ろうしていることを話しました。それを聞いたおぼうさんは、立ちさる前にむすめに三つの場所をつえでさししめして、そこに井戸をほるようにと言いのこしていきました。ぎ問に思いながらも、村人たちがそこの場所をほると、深くほることもなく、きれいな水が出てきました。夏でもかれることのないその井戸を、村人たちは「三ツ井戸」とよび、あのおぼうさんは弘法大師（こうぼうだいし。日本一有名なおぼうさんだという話が広まりました。